富山県南砺市

# 久戸Ⅱ遺跡　Ⅱ

―― 一般県道福野城端線道路改良工事に伴う
埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(2) ――

2006年3月

南砺市教育委員会

# 序

南砺市の中央部に位置する北山田地区は、山田川左岸の河岸段丘上にあります。近年の開発行為に伴い発掘調査が行われ、縄文時代から中世まで様々な遺跡が発見され、多くの歴史遺産が埋蔵されていることがわかりました。

今回の調査は一般県道福野城端線道路改良工事に伴う久戸Ⅱ遺跡の本調査であり、本書はその調査結果をまとめたものです。郷土の歴史解明や、学術研究等に活用していただければ幸いです。

この調査の実施にあたり、富山県土木部、南砺市シルバー人材センターをはじめ、地元住民の方々に多大なご協力を賜りましたことに、深く感謝するものであります。

平成18年３月

南砺市教育委員会

教育長　梧　桐　角　也

# 例　　言

1. 本書は、一般県道福野城端線改良工事に伴う富山県南砺市久戸Ⅱ遺跡の発掘調査概要である。

2. 調査は、富山県土木部の委託を受け、南砺市教育委員会が実施した。現地調査は、平成17年３月24日から同年６月８日までである。調査面積は1,685㎡である。

3. 調査事務局は南砺市教育委員会文化課におき、文化課長　上田一郎総括のもと、文化財係長　林浩明、同係文化財保護主事　片田亜紀が調査事務を担当した。調査の担当及び本書の執筆は、片田が行った。

4. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。

荒井武光・太嶋勇・丹保光雄・山田政寛　（敬称略・五十音順）

5. 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967「新版標準土色帖」日本色研事業株式会社を用いた。

6. 今回の調査で記録した図面、写真、出土遺物は南砺市教育委員会が保管している。

7. 調査参加者は次のとおりである。

井口金治・井口外治・井口冨士雄・棚田俊雄・溝口日出夫・山田善之

井口艶子・橋本澄子・水口浜子・溝口秋子・山田澄乃（現地作業員）

西川和美（遺物整理作業）

# 目　　次


Ⅰ　位置と環境……1

第１図　位置と周辺の遺跡……1

Ⅱ　調査に至る経緯と経過……2

Ⅲ　調査の概要……2

１　調査の方法……2

第２図　遺跡範囲と調査区位置図……3

２　久戸Ⅱ遺跡６地区の概要……4

第３図　久戸Ⅱ遺跡６地区の基本層序……4

第４図　久戸Ⅱ遺跡６地区の調査地区割…4

Ⅳ　まとめ……8

参考文献……8

第５図　久戸Ⅱ遺跡６地区遺構配置図(1)……9

第６図　久戸Ⅱ遺跡６地区遺構配置図(2)……11

第７図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(1)……13

第８図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(2)……14

第９図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(3)……15

第10図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(4)……17

第11図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(1)……18

第12図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(2)……19

第13図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(3)……20

図版１　久戸Ⅱ遺跡６地区遠景

図版２　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(1)

図版３　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(2)

図版４　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(3)

図版５　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(4)

図版６　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(1)

図版７　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(2)

図版８　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(3)

図版９　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(4)

報告書抄録

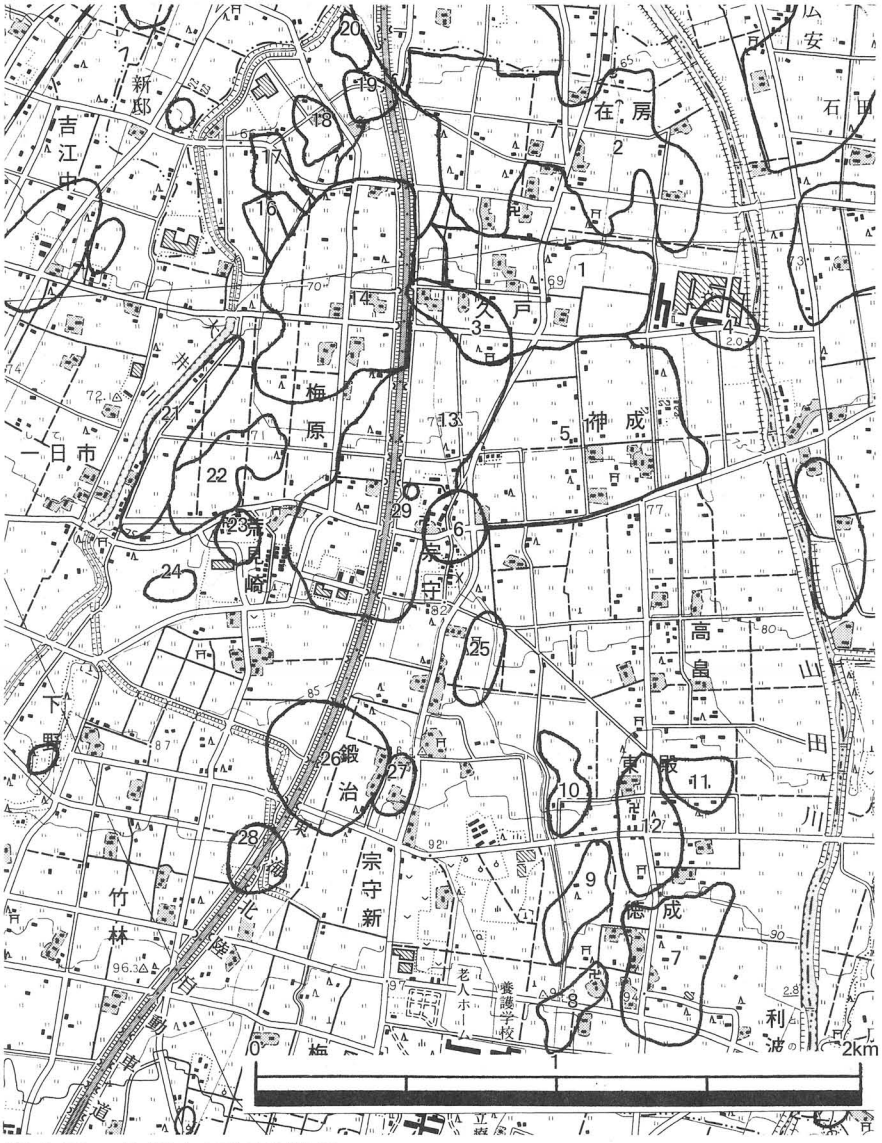
# Ⅰ　位置と環境

富山県南砺市は、石川県金沢市と県境をなす富山県の西南部端に位置する。町の西側には、養老３年(719)、泰澄大師によって開山されたと言う霊峰医王山をはじめとする山脈が連なる。市の南西部にある大門山から流れる小矢部川が、その支流とともに平野部を形成する。福光の市街地は主に小矢部川沿いに展開し、小矢部川とその支流である山田川に挟まれた段丘には小河川が縦横に走り、それらを利用した田地が広がる。

久戸Ⅱ遺跡は、山田川左岸の標高約67m～70mの緩やかな傾斜を持つ洪積台地上の高宮田尻面に位置する。現況は主に水田である。山田川を隔て、砺波平野を一望できる微高地に立地し、台地末端から河川域までの比高差は２m前後を測る。

周辺には、在房遺跡、久戸遺跡、神成遺跡、宗守遺跡、梅原胡摩堂遺跡などの遺跡が密集しており、近年の調査で、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡や中世の建物跡が数多く発見されている。また墨書土器や製塩土器なども出土しており、北山田地区一帯では古くから大規模な集落が営まれていたことがわかる。

文献資料では、旧福光町の一部が礪波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ、官倉が置かれていたことが知られる。その後11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に含まれる。




**第１図　位置と周辺の遺跡**　(S=1:25,000)

## Ⅱ　調査に至る経緯と経過

旧福光町北山田北部地区では、東海北陸自動車道建設、県営ほ場整備事業(担い手育成型)の施工に伴い、遺物分布調査、試掘調査を行い、地区の大部分に縄文時代から中近世に続く集落等が遺存する埋蔵文化財包蔵地を確認した。この結果、工事の施工によりやむを得ず遺跡が破壊される、または永久に調査する機会を失ってしまう箇所については、県埋蔵文化財センター、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所、町教育委員会がそれぞれ本調査を実施してきた。

一般県道福野城端線（以降「県道」）は北山田地区を南北に走る道路である。この県道については改良計画があげられており、埋蔵文化財包蔵地内にあたる神成・久戸地内で工事が進められることなったため、平成15年度から本調査を実施することとなった。

平成15年度の調査は、県道が新しく敷設される部分の南端であり、面積は神成遺跡600㎡、久戸Ⅱ遺跡840㎡の計1,440㎡である。今回の調査地区は平成15年度の調査地区の北側の延長である。調査地区は久戸Ⅱ遺跡の南西端に位置し、西には久戸遺跡が隣接する。南北幅は約130m、東西幅は約11mである。面積は1,685㎡を測る。

## Ⅲ　調査の概要

### 1. 調査の方法

調査区域の設定後、試掘調査の結果にもとづき、調査員の立ち会いのもとで表土除去を行った。表土除去には重機を使用し、耕作土および前回ほ場整備時の盛土の層まで掘削した。耕作土は、盛土と分けて調査区の外に搬出した。

表土除去後に、調査区に合わせたおおよその東西方向、南北方向に基準杭を設置して調査区割りを行った。区割りは、南から北にX軸、西から東にY軸とし、２mを一区画としてアラビア数字で表記した。

調査区に合わせてサブトレンチを設定し、地山面まで掘り下げて層位を観察した。一部にセクションベルトを残して層位を確認しながら、人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を行った。遺構の掘削は、埋土の堆積状況を観察するために半載するか、セクションベルトを２本ないし３本残して掘削し、土層の記録作業が終わりしだい完掘した。排土は、人力により調査区外へ搬出した。

遺構は検出後、1：100で概略図を作成して、遺構ごとに通し番号をつけ、管理した。遺構の検出状況や土層、遺物の出土状況は、手実測により1:20で図化を行った。また各遺構の検出状況、断面、完掘状況などの記録写真、調査区のブロック写真、全体写真を撮影した。すべての遺構完掘後、ラジコンヘリコプターによる空中写真測量撮影を図化用に行い、あわせて俯瞰・斜め写真等を撮影した。

出土遺物は、現地作業と並行して洗浄・バインダー処理・注記・仕分けの整理作業を行った。接合、復元は現場作業中止時や、現場終了後に行った。写真や図面は年度・遺跡・地区ごとにファイルにまとめ、出土遺物は報告書の写真図版のとおりに整理箱に収めた。またそれ以外の遺物は地区の遺構ごと、グリットごとにならべて整理箱に収めた。

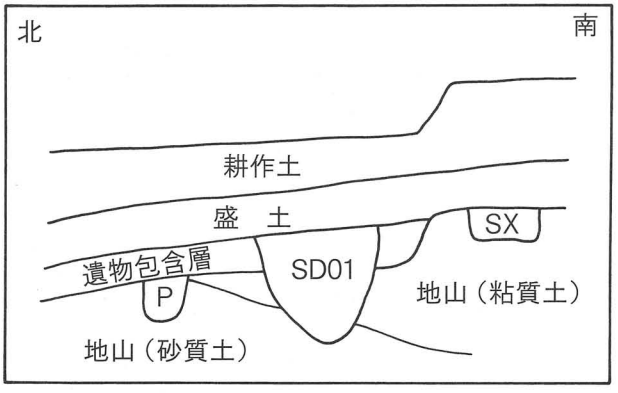
**第２図　遺跡範囲と調査区位置図**　(S=1:5,000)

## ２．久戸Ⅱ遺跡６地区の概要

### ⑴　地形と層序（第３図）

６地区は、久戸Ⅱ遺跡の中央から南西よりに位置する。現況の一般県道福野城端線の西隣である。

海抜は70.1～71.1mを測り、地形は南から北へ緩やかに傾斜している。地表から地山面までは約25cmあり、地山（黄褐色粘質土/砂礫土）、遺物包含層（黒褐色粘質土）、盛土（茶褐色粘質土）、現代の耕作土の順に堆積している。X15～20付近に旧河道ＳＤ01があり、これより南では包含層は遺存していない。

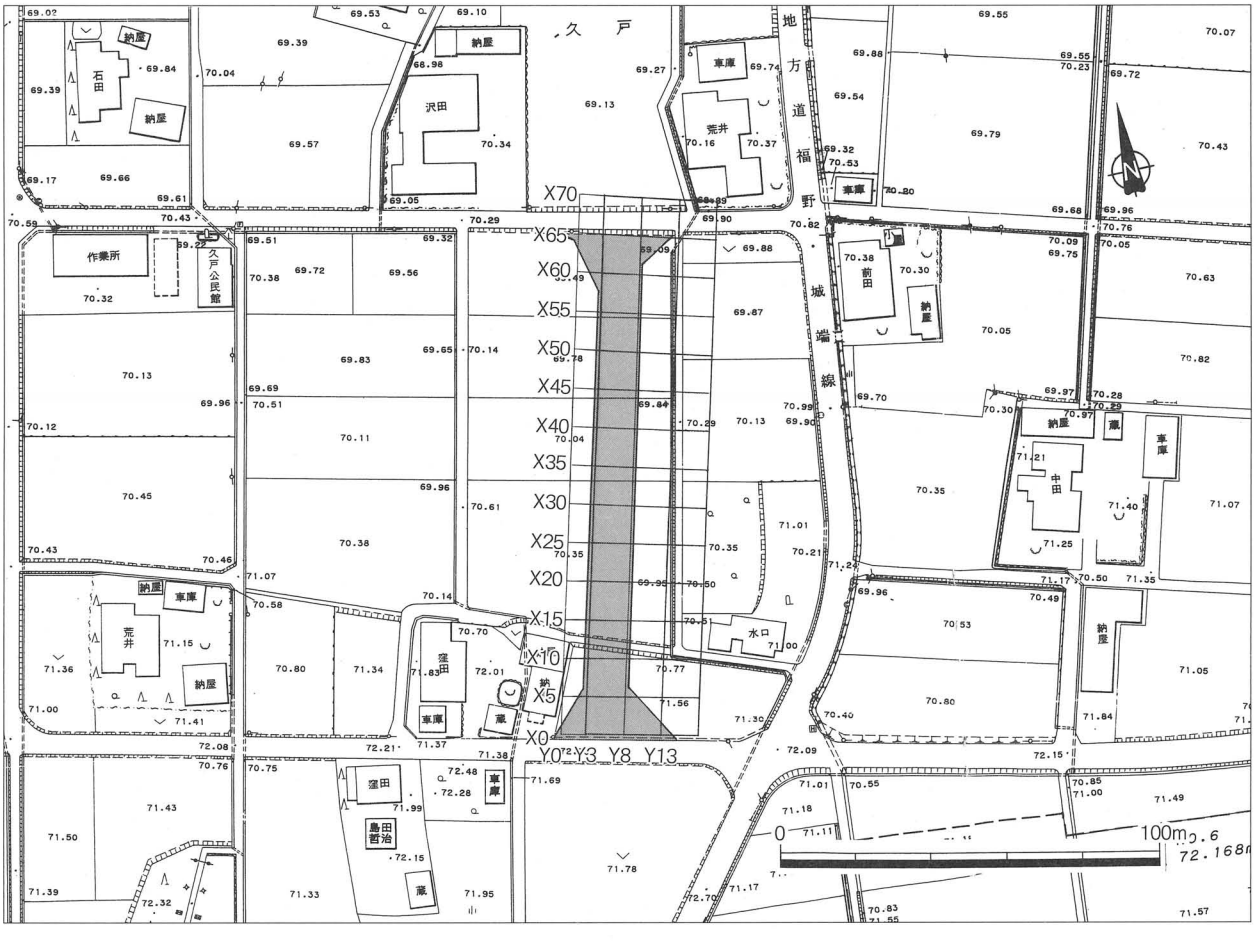



**第３図　久戸Ⅱ遺跡６地区の基本層序**

### ⑵　遺構の概要

**ＳＩ01**（第９図・図版２）

調査区南東端、Ｘ２、Ｙ10付近に位置する。東西、南北共に幅約2.6mの隅丸方形の竪穴状土坑である。深さは約20cmであり、埋土は黒色粘質土を中心に３層に細分できる。壁面は緩やかに立ち上がる。出土遺物に土師器・皿、甕の底部がある。




**第４図　久戸Ⅱ遺跡６地区の調査区割**（Ｓ＝1:2,000）

ＳＩ02（第９図・図版２）

調査区南東端、Ｘ１、Ｙ９付近に位置する。東西方向約３ｍ、南北方向約2.3ｍの長方形の竪穴状土坑である。深さは約40cmであり、埋土は黒色粘質土を中心に５層に細分できる。壁面は西側が急に、東側は緩やかに立ち上がる。出土遺物には須恵器・杯、土師器・皿、小甕がある。

ＳＩ03（第10図・図版２）

調査区の中央より南側、Ｘ14、Ｙ６付近に位置する。住居の北側は暗渠に切られているが、１辺が２ｍ程の竪穴状土坑である。深さは約40cmであり、埋土は黒色粘質土を中心に２層に細分できる。炭化物が多く混入している。出土遺物には土師器・皿、珠洲・甕がある。

ＳＢ01（第７図・図版３）

調査区中央付近、Ｘ35～38、Ｙ６～８に位置する。東側が調査区外に伸びるため東西方向は２間以上、南北方向は３間の総柱建物である。棟方向は真北に対し７°西へ振れる。建物の柱間は約1.5ｍ、柱穴は直径30～50cmの円形を呈する。深さは約25cmであり、埋土は黒色粘質土を中心に地山粘質土が混じる。Ｐ１から須恵器・壷の底部が、Ｐ３からは須恵器・壷の体部が出土している。

ＳＢ02（第８図・図版３）

調査区中央付近、Ｘ39～46、Ｙ６～８に位置する。南北方向は５間、東側が調査区外に伸びるため、東西方向は２間以上の総柱建物である。ＳＢ01の北約2.5ｍに位置し、棟方向は真北に対し22°東へ振れる。建物の柱穴は、直径20～30cmの円形を呈し、深さは約20～30cmである。埋土は黒色粘質土を中心に若干地山粘質土が混じる。

ＳＢ03（第７図・図版３）

調査区北側の西寄り、Ｘ56～58、Ｙ３～５に位置する。南北方向は２間、西側が調査区外に伸びるため、東西方向は３間以上の側柱建物であると考えられる。棟方向は真北に対し13°東へ振れる。建物の柱穴は、直径20～25cm、深さは約20cmのほぼ円形を呈する。埋土は黒色粘質土を中心とし、地山砂質土や礫が混じる。

ＳＫ14・15（第10図・図版５）

ＳＫ14は調査区の中央南側寄り、Ｘ12、Ｙ７付近に位置する。南北2.5ｍ、東西2.2ｍの不整形の土坑である。検出面からの深さは８cmと浅いが、埋土は２層に細分でき、そのうち上層の①層は炭化物のみが３cm程堆積している。ＳＫ15はＸ13、Ｙ７付近、ＳＫ14の北側に位置する。南北３ｍ、東西2.5ｍのやや円形の土坑である。深さは約10～15cmと浅いが、埋土は炭化物の層と黒色粘質土と地山混じり具合で３層に分けられる。ＳＫ14と同じく炭化物のが多く混入している。

ＳＤ01（第６図）

調査区の中央付近を南東から北西へ流れる。河道内には現代の暗渠が４本入っており、北側の肩は検出できなかったが、幅は10ｍ程と考えられる。深さは約1.5ｍを測り、埋土はおおまかに３層に分けられる。上層が渇灰色粘質土、中層が砂礫混じりの黒色粘質土である。下層は青灰色粘質土と砂礫土が互層をなす。中層は中世には埋没していたが、上層は近代まで流れていたようで、近代の陶磁器などが多数混入している。中層と下層からは縄文土器、土師器、須恵器、珠洲、青磁、八尾、木製品が数多く出土しているが、流れ込みによるものと考えられる。この河道からは試掘調査時にも、多くの土器や木製品が出土している。中には15世紀頃の祭祀に使用したと考えられる木製人形もある。

ＳＤ02・ＳＤ03・ＳＤ04（第５図）

調査区中央Ｘ16～20、Ｙ７付近に位置し、南北方向に３本が並行している。非常に浅い遺構であり、

確認できた全長はＳＤ02が2.5m、ＳＤ03が８ｍ、ＳＤ04が２ｍである。幅は約25cmであり、畑のサク状遺構とも考えられる。

**ＳＸ01**（第９図・図版４）

調査区南側、Ｘ４、Ｙ８付近、ＳＩ01の西側に隣接する。南北約2.5m、東西約３ｍの隅丸方形の大型土坑である。深さは約40cmであり、埋土は黒褐色粘質土と黒色粘質土に地山が混じり６層に細分できる。遺構内のほぼ中央と西側に深さ20cm程の穴を検出した。西側で、ＳＫ09を、東側でＳＸ04を切っている。珠洲、砥石が出土している。

**ＳＸ02・03・04**（第９図・図版４）

調査区南側、Ｘ４、Ｙ８付近に位置する。ＳＸ02は南北約2.5m、東はＳＸ03に切られているが、東西推定３ｍ弱の方形の大型土坑である。深さは約50cmであり、埋土は黒色粘質土と黒褐色粘質土５層に細分できる。土坑内の西寄りに、地山を削り出して成形した直系約１ｍの円形のテーブル状遺構がある。その直上には集石があったが、用途は不明である。ＳＸ03はＳＸ02の東に隣接し、ＳＸ02を切っている。東側はＳＸ04に切られているため、遺構の全容ははっきりしない。埋土は黒褐色土を中心に３層に分けられる。ＳＸ04はＳＸ03の東側に隣接し、ＳＸ03を切っている。南北は幅約４ｍ、東西約３ｍの隅丸方形の大型土坑である。立ち上がりはゆるやかで、深さは約80cm、埋土は黒褐色粘質土と黒色粘質土を中心に４層に細分できる。ＳＸ04からは中世土師器、珠洲・すり鉢が出土している。

**ＳＥ01・02**（図版５）

調査区南側、Ｘ３、Ｙ８付近に位置する。直径１ｍ前後の円形を呈し、断面形は袋状に広がっている。約1.3m掘削したところで湧水点に達した。埋土は黒褐色土と地山粘質土が混じる。共に素掘りの井戸である。ＳＥ02から箸が出土している。

**柱穴**

柱穴はＳＤ01から北側に集中している。土坑や竪穴住居の周りに多いが、建物となるような規則的な並びは見つけることができなかった。

### ⑶　遺物の概要

出土遺物には、縄文土器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、越前、八尾、青磁、木製品がある。以下出土遺構別に述べる。

**ＳＩ01**（第11図・図版６）

１は中世土師器・皿である。非ロクロ成形であり、口縁部付近にナデが、底部に指圧痕がみられる。２は土師器の底部である。

**ＳＩ02**（第11図・図版６）

３は土師器・甕の口縁部である。４は須恵器・杯の底部である。内面ロクロナデが施され、底部はヘラ切りである。色調は青灰色である。５は土師器・皿である。６は珠洲・甕の体部破片である。内面に当て具痕、外面に平行叩き目がみられる。

**ＳＩ03**（第11図・図版６）

７、８は土師器・皿である。９、10は珠洲・甕の体部破片である。外面に平行叩き目がみられる。11は珠洲・甕の頸部破片である。内面に当て具痕、外面に平行叩き目がみられる。外面に「大」の字の刻字文と「⊛」の印花文が施されている。

**ＳＢ01**（第13図・図版６）

12はＳＢ01のＰ１出土で、須恵器・壺の体部下半と考えられる。色調は青褐灰色を呈する。13はＰ３からの出土で、須恵器・壺の体部である。内面にロクロナデがみられる。外面に自然釉がかかる。

**ＳＫ04**（第11図・図版６）

14は中世土師器・皿である。ロクロ整形であり、底部に糸切り痕がみられる。15は中世土師器・皿で、非ロクロ整形である。

**ＳＫ16**（第11図・図版６）

17は土師器・皿である。底部に糸切り痕がみられる。底部からほぼ直線的に開く形で、内外面にナデを施す。

**ＳＸ01**（第11図・図版６）

18は珠洲・甕の体部破片である。内面に当て具痕、外面に平行叩き目がみられる。

**ＳＸ02**（第11図・図版６）

19は須恵器・杯である。20は砥石である。一部が欠損しているが、両面共に磨耗している。21は珠洲・壺か甕の体部破片である。外面に平行叩き目がみられる。

**ＳＸ04**（第12図・図版６）

22は土師器・皿である。23は土師器・椀である。24は珠洲・すり鉢である。焼きぶくれがある。

**ＳＸ05**（第12図・図版６）

25・26は土師器・皿である。非ロクロ整形である。

**ＳＤ01**（第12～13図・図版６～９）

27～29は縄文土器・深鉢である。28は内面をケズリ後ナデ調整を施し、指圧痕が見られる。外面はヘラ状工具による横、斜めの条痕がみられる。29は、外面の上部に４状の平行紋があり、下部に櫛状具による縦方向の条痕がみられる。30～36は須恵器である。時期は８世紀後半から９世紀頃である。30・31は杯である。32は杯Ｂである。33～35は蓋である。34は焼きぶくれがあり、ひずみが生じている。35はほぼ完形に復元できる。36は須恵器・鉢である。37～40は土師器・皿である。38は内面に黒色処理を施す。41は青磁・椀である。連弁紋がみられる。42～44は珠洲・甕の口縁部である。12世紀頃のものと考えられる。45は珠洲・すり鉢の体部破片である。外部に「≠□」の文字のヘラ書きが施されている。46は珠洲・甕の体部破片である。内面に当て具痕が、外面に平行叩き目がみられる。47は越前・甕である。48・49は八尾・甕である。50・51は木製の椀であり、内外面に黒漆が塗布されている。52・53は箸である。54は曲物の底板である。刃当たり痕が見られる。

**ＳＥ02**（第13図・図版９）

55は木製の箸である。

**柱穴**（第13図・図版９）

56はＰ91出土の土師器・非ロクロ整形の皿である。57はＰ105出土の中世土師器・椀か皿の口縁部である。58はＰ134出土の土師器・柱状高台の皿である。59・60はＰ153出土の土師器・皿である。

**包含層**（第13図・図版９）

61は土師器・椀の底部である。62は土師器・柱状高台の皿である。63は土師器・非ロクロ整形の皿である。64は珠洲・すり鉢である。

## Ⅳ　まとめ

1．今回の調査区では、全体的に遺物包含層は削平を受けているが、多くの大型土坑や柱穴を検出した。今回確認したのは竪穴住居３、掘立柱建物３棟、土坑17基、井戸２基、河道１、柱穴である。時期は主に古代から中世である。

2．南側の一段高い部分では、遺物包含層は削平を受けているが、多くの大型土坑や柱穴を検出した。しかし、土坑からの出土遺物が少なく、用途ははっきりしない。また建物となりそうな柱穴列も発見できなかった。井戸は素掘りで、上屋の跡も検出できなかった。

3．調査区の中央付近で検出した土坑２基には遺構内や周辺に焼土はないが、炭化物が集中していた。また河道からは縄文～近世まで多くの遺物が出土した。しかし、この河道は中世までにある程度埋没し上層にあたる部分は近代まで流れていたと考えられる。縄文や古代の遺物は各時代の流れ込みによるものと考えられる。

4．今回の調査で検出した掘立柱建物３棟のうちＳＢ01、ＳＢ02は総柱建物で柱穴も大きく、出土遺物からみても、８世紀後半から９世紀代に属すると考えられる。ＳＢ03は側柱建物であり柱穴の大きさも小さく、ＳＢ01やＳＢ02よりも時期は若干新しいと考えられる。

### 参考文献


井口村教育委員会2002『井口Ａ遺跡発掘調査報告』

内田亜紀子2003「富山県の黒色土器(２) －9～11世紀の県内資料を中心にして－」『紀要第６号　富山考古学研究』

金田章裕1993「医王山麓の平野における中世の景観」『医王は語る』

小杉町教育委員会2005『赤田Ⅰ遺跡発掘調査概要(１)』

㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編)』

㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編)』

㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2003『勅使塚古墳　永代遺跡　安居窯跡群　中山中遺跡発掘調査報告』

㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2003『任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅰ』

珠洲市立珠洲資料館1989『珠洲の名陶』

福光町教育委員会2001『在房遺跡Ⅰ』

福光町教育委員会2003『県営ほ場整備事業(担い手育成型)に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告－北山田北部地区－』

福光町教育委員会2004『神成遺跡Ⅰ　久戸Ⅱ遺跡Ⅱ』

南砺市教育委員会2005『久戸Ⅱ遺跡Ⅲ　神成遺跡Ⅱ』

舟橋村教育委員会2000『浦田遺跡発掘調査報告(３)』

北陸古代土器研究会1993『北陸古代土器研究第３号』

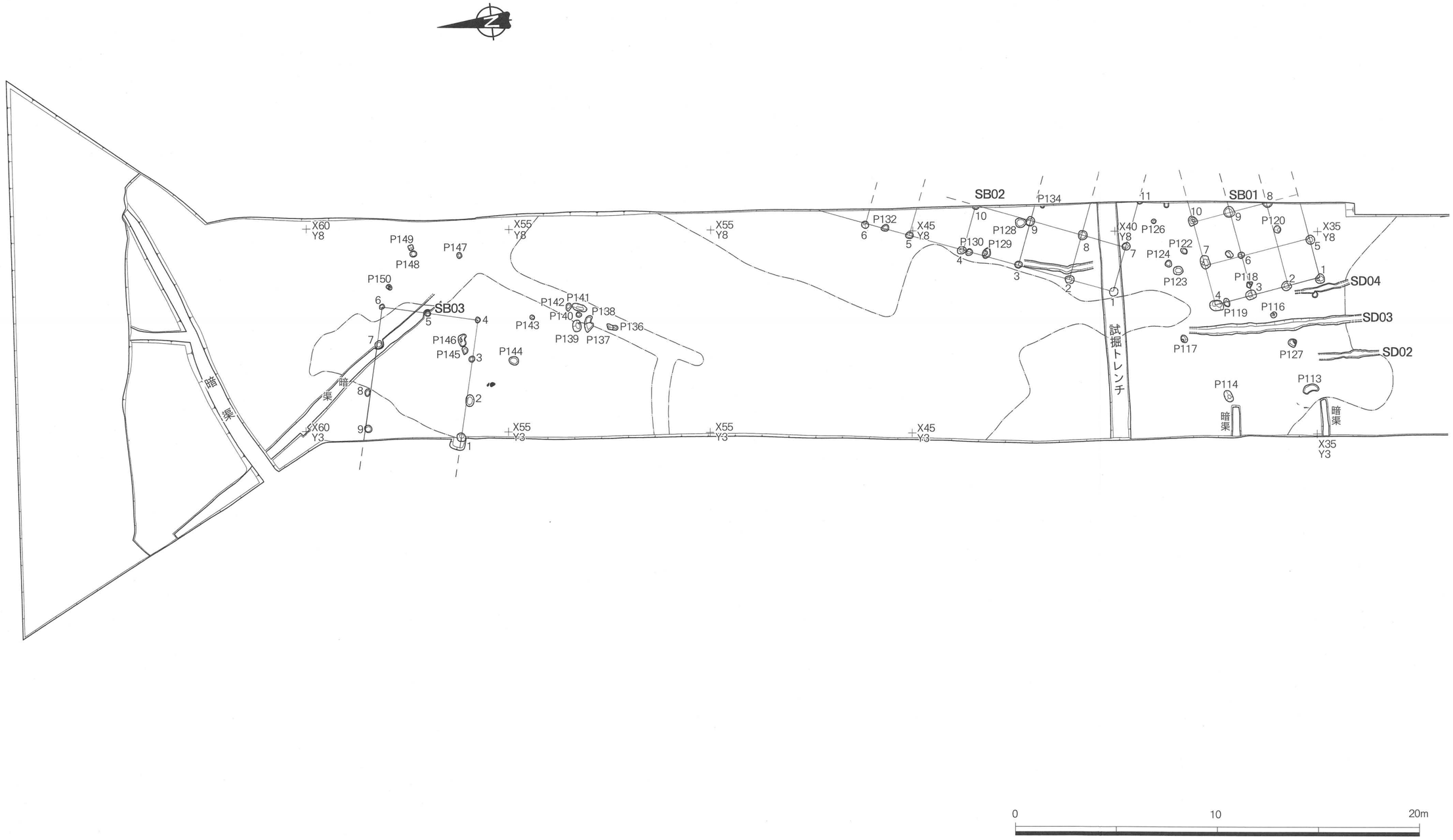
北陸古代土器研究会1994『北陸古代土器研究第４号』

北陸古代土器研究会1995『北陸古代土器研究第５号』

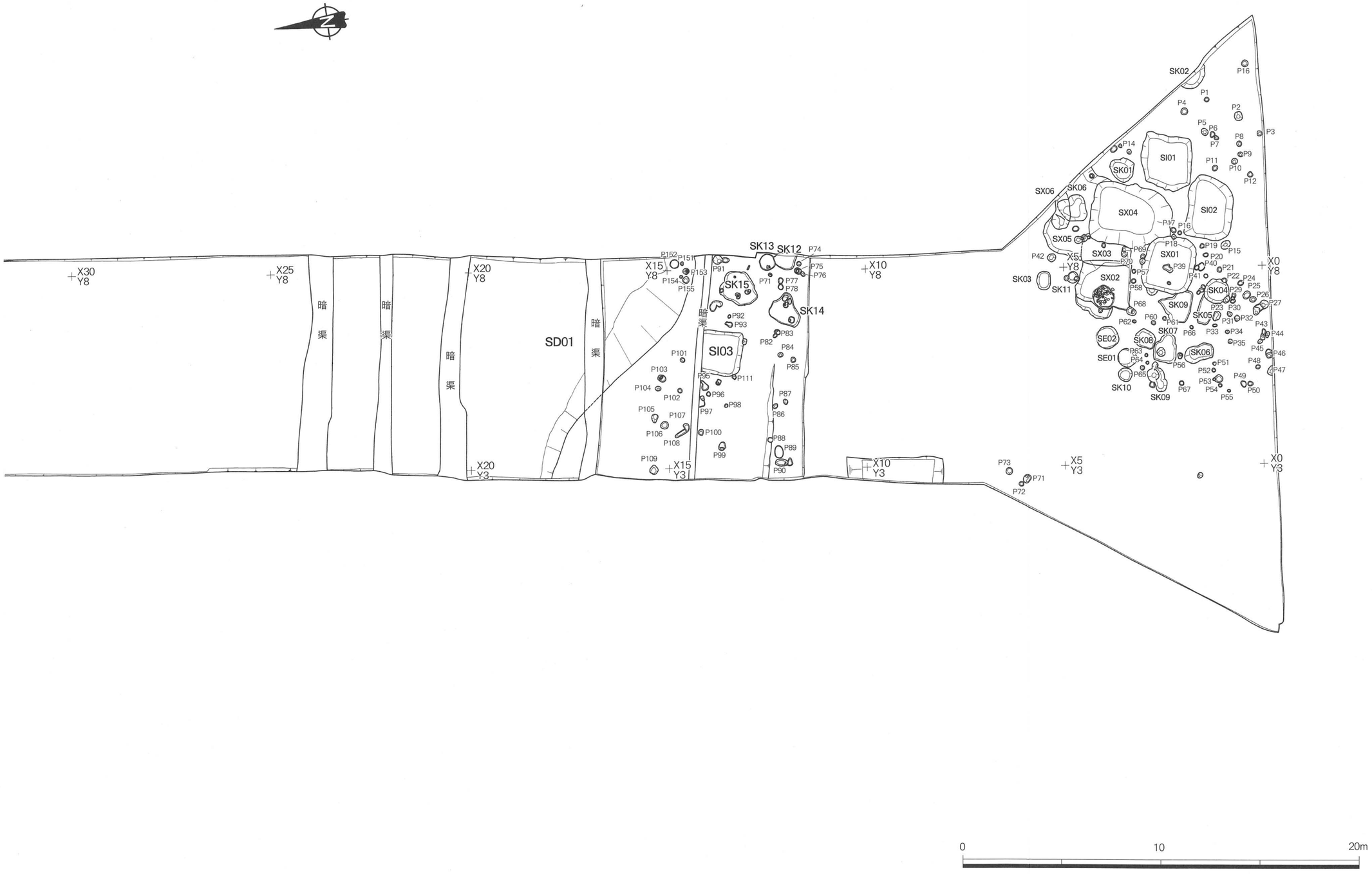
北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第６号』

北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第７号』

吉岡康暢1991『日本海域の土器・陶磁　[古代編]』六興出版

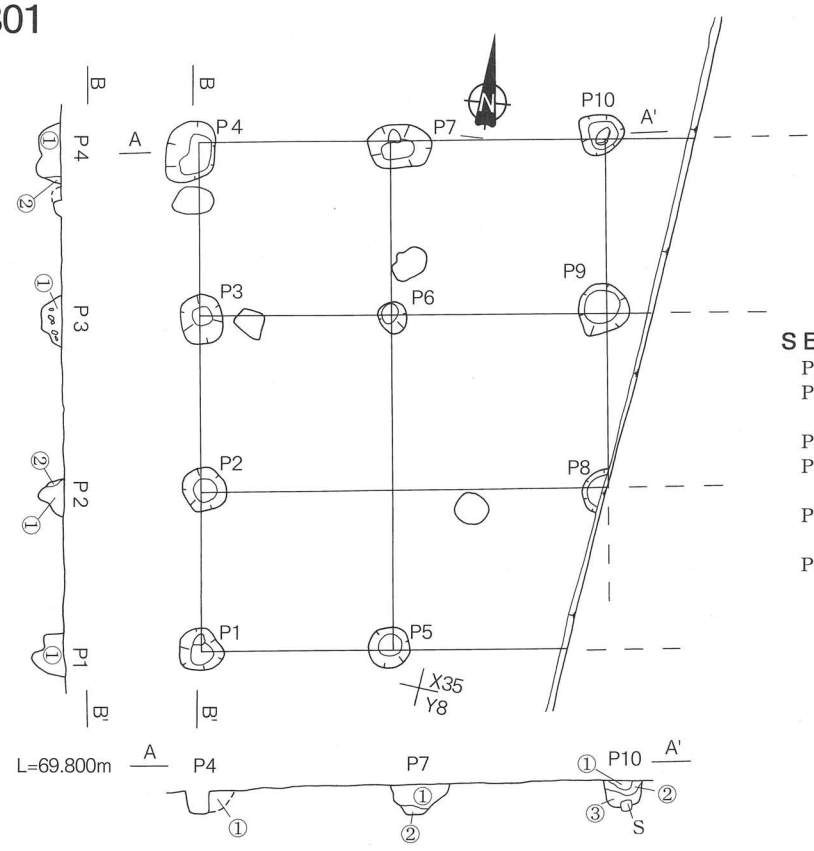



第５図　久戸Ⅱ遺跡６地区遺構配置図(1)　(S=1:200)




第６図　久戸Ⅱ遺跡６地区遺構配置図(2)　(S=1:200)

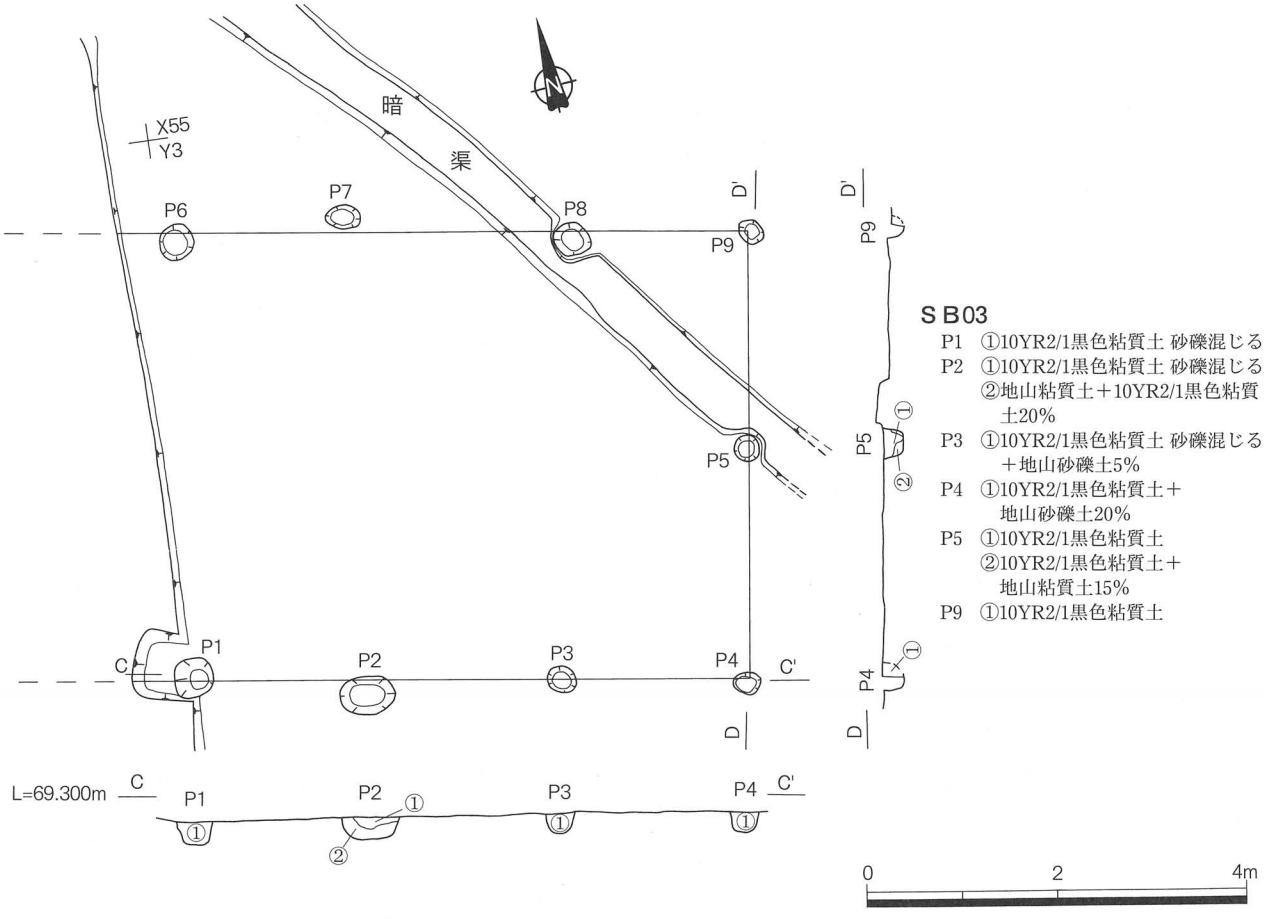
## SB01




**S B01**

P1 ①10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土10%
P2 ①10YR2/1黒色粘質土
②10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土40%
P3 ①10YR2/1黒色粘質土
P4 ①10YR2/1黒色粘質土
②地山粘質土＋10YR2/1黒色粘質土5%
P7 ①10YR2/2黒褐色粘質土＋地山粘質土30%
②10YR2/1黒色粘質土
P10 ①10YR2/1黒色粘質土
②地山粘質土＋10YR2/1黒色粘質土20%
③10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土5%

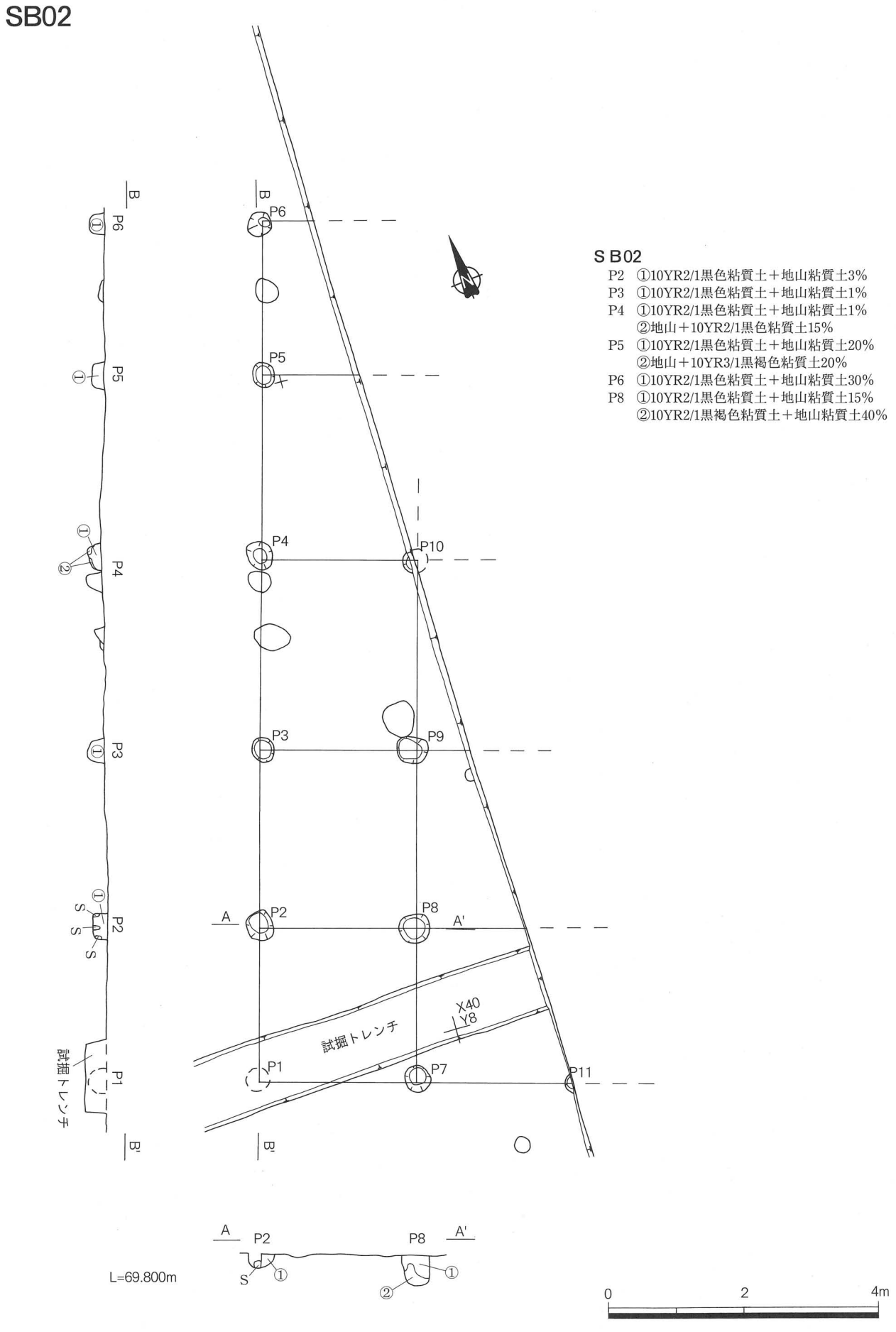
## SB03



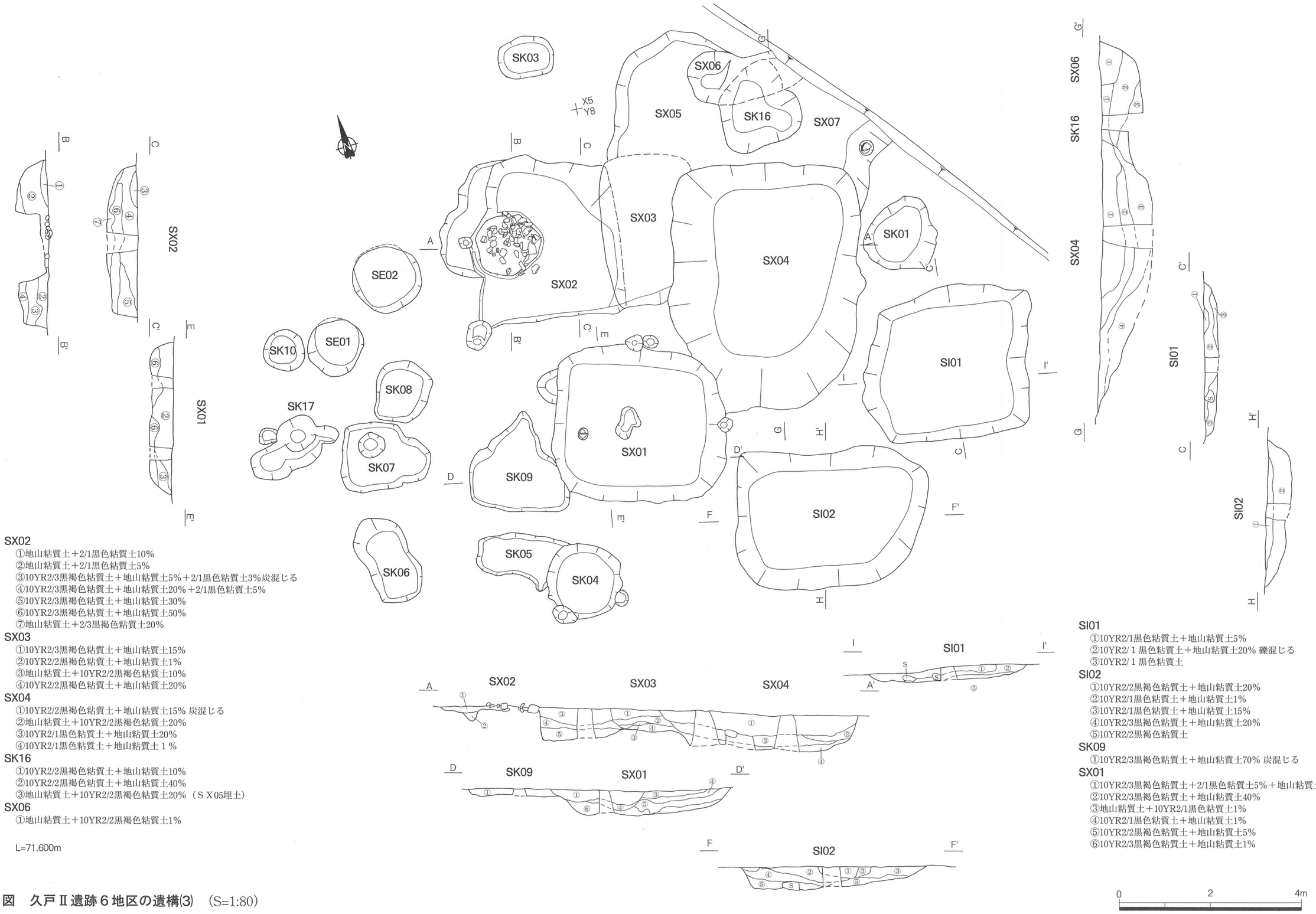

**S B03**

P1 ①10YR2/1黒色粘質土 砂礫混じる
P2 ①10YR2/1黒色粘質土 砂礫混じる
②地山粘質土＋10YR2/1黒色粘質土20%
P3 ①10YR2/1黒色粘質土 砂礫混じる＋地山砂礫土5%
P4 ①10YR2/1黒色粘質土＋地山砂礫土20%
P5 ①10YR2/1黒色粘質土
②10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土15%
P9 ①10YR2/1黒色粘質土

**第７図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(1)**　(S=1:80)




第８図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(2)　(S=1:80)




**SX02**
①地山粘質土＋2/1黒色粘質土10%
②地山粘質土＋2/1黒色粘質土5%
③10YR2/3黒褐色粘質土＋地山粘質土5%＋2/1黒色粘質土3%炭混じる
④10YR2/3黒褐色粘質土＋地山粘質土20%＋2/1黒色粘質土5%
⑤10YR2/3黒褐色粘質土＋地山粘質土30%
⑥10YR2/3黒褐色粘質土＋地山粘質土50%
⑦地山粘質土＋2/3黒褐色粘質土20%

**SX03**
①10YR2/3黒褐色粘質土＋地山粘質土15%
②10YR2/2黒褐色粘質土＋地山粘質土1%
③地山粘質土＋10YR2/2黒褐色粘質土10%
④10YR2/2黒褐色粘質土＋地山粘質土20%

**SX04**
①10YR2/2黒褐色粘質土＋地山粘質土15% 炭混じる
②地山粘質土＋10YR2/2黒褐色粘質土20%
③10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土20%
④10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土１%

**SK16**
①10YR2/2黒褐色粘質土＋地山粘質土10%
②10YR2/2黒褐色粘質土＋地山粘質土40%
③地山粘質土＋10YR2/2黒褐色粘質土20%（ＳＸ05埋土）

**SX06**
①地山粘質土＋10YR2/2黒褐色粘質土1%

L=71.600m

**SI01**
①10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土5%
②10YR2/１黒色粘質土＋地山粘質土20% 礫混じる
③10YR2/１黒色粘質土

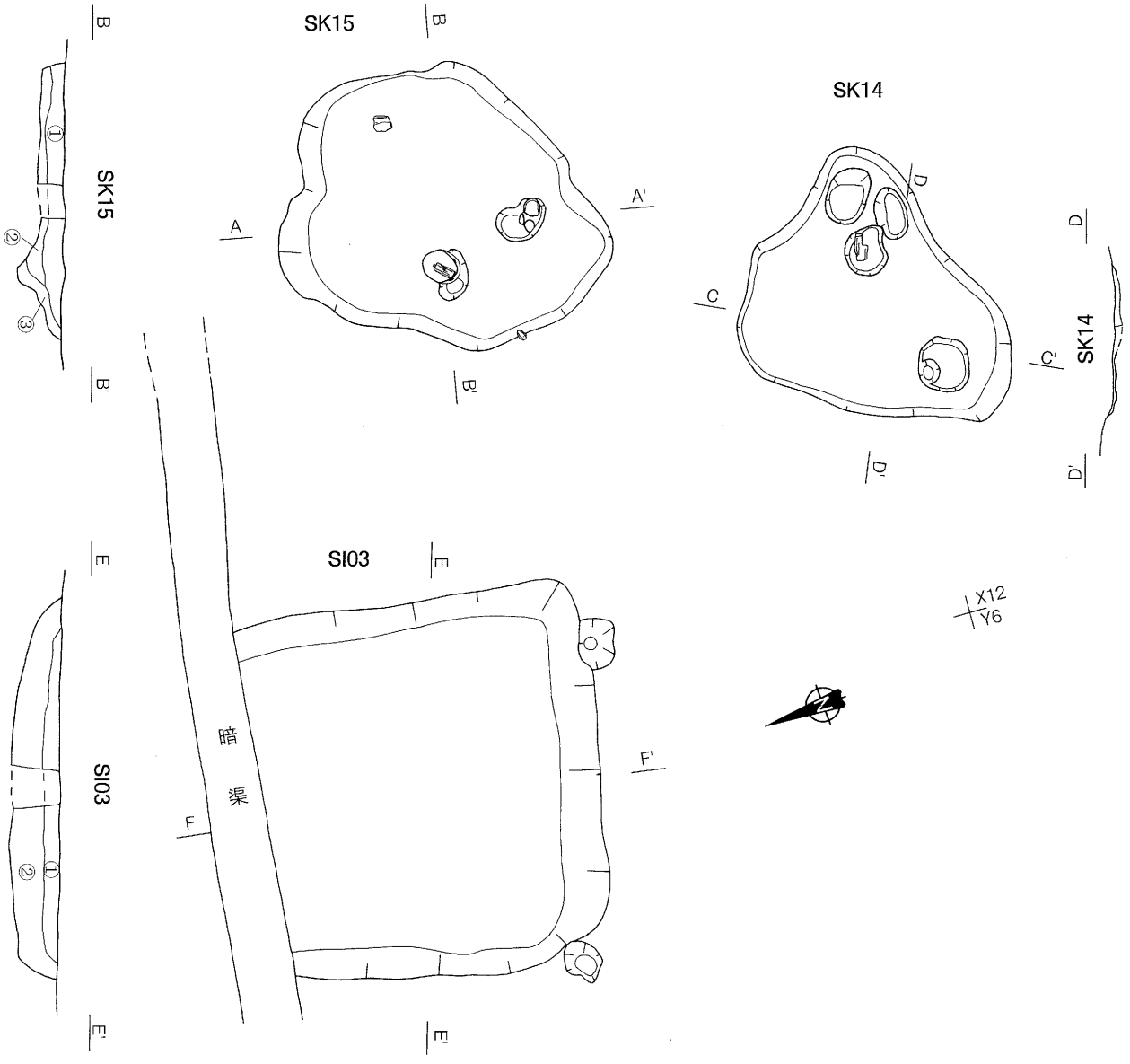
**SI02**
①10YR2/2黒褐色粘質土＋地山粘質土20%
②10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土1%
③10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土15%
④10YR2/3黒褐色粘質土＋地山粘質土20%
⑤10YR2/2黒褐色粘質土

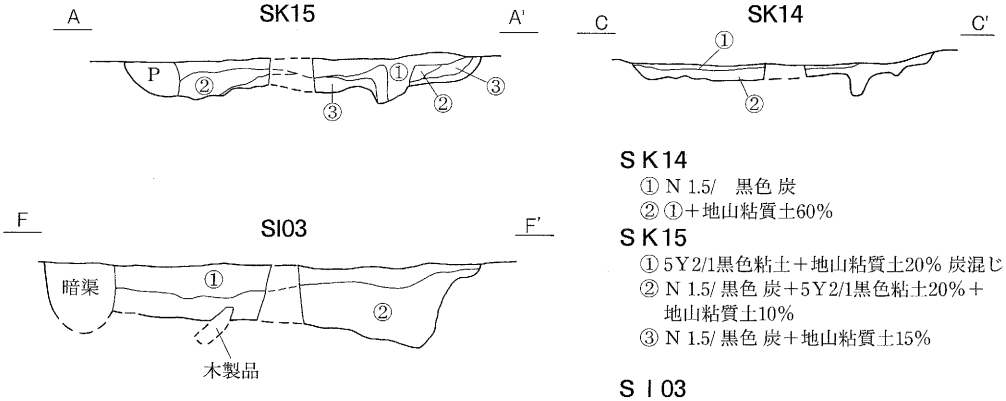
**SK09**
①10YR2/3黒褐色粘質土＋地山粘質土70% 炭混じる

**SX01**
①10YR2/3黒褐色粘質土＋2/1黒色粘質土5%＋地山粘質土3%
②10YR2/3黒褐色粘質土＋地山粘質土40%
③地山粘質土＋10YR2/1黒色粘質土1%
④10YR2/1黒色粘質土＋地山粘質土1%
⑤10YR2/2黒褐色粘質土＋地山粘質土5%
⑥10YR2/3黒褐色粘質土＋地山粘質土1%

0　2　4m

**第９図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(3)**　(S=1:80)



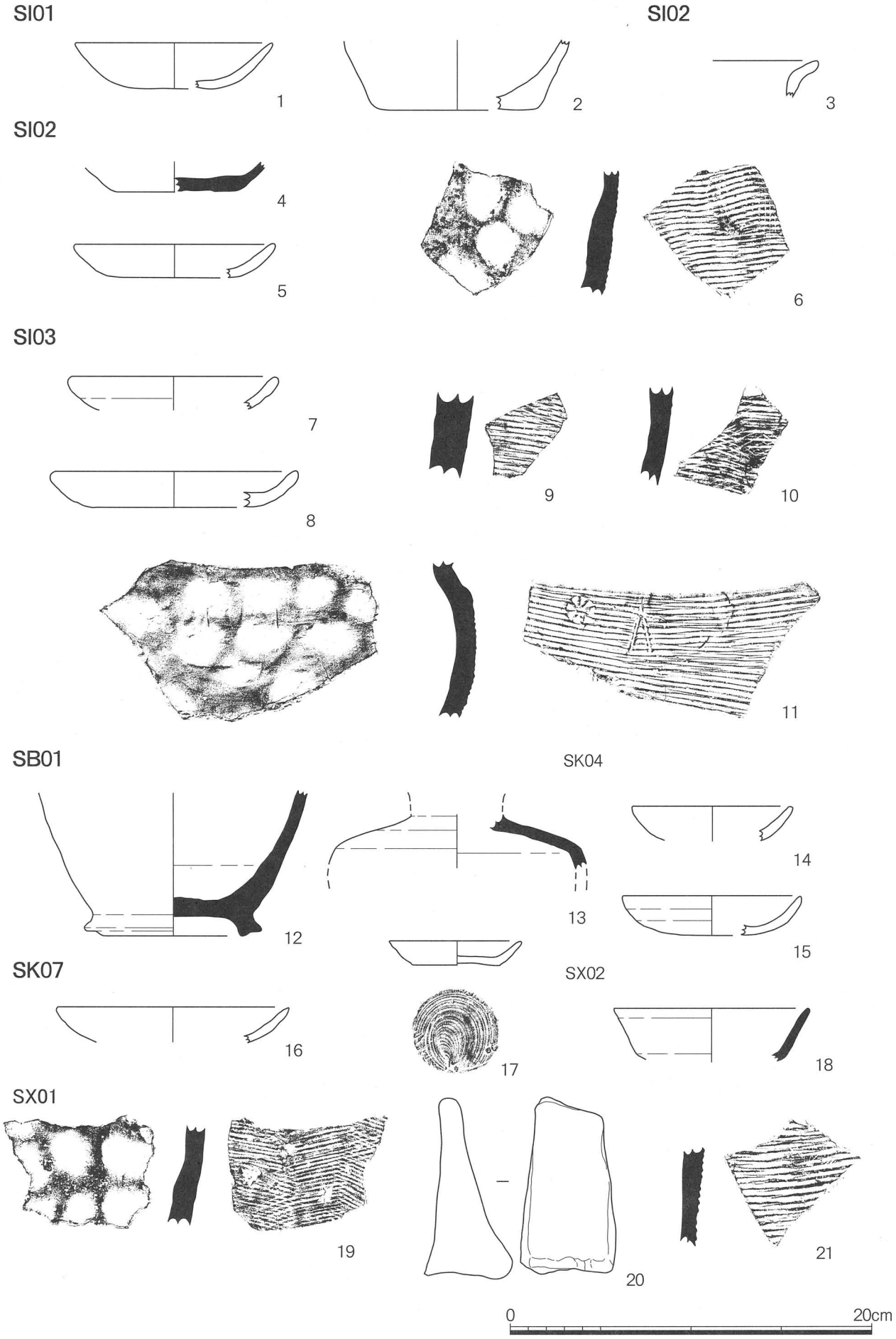

**SK14**
① N 1.5/ 黒色 炭
② ①＋地山粘質土60%

**SK15**
① 5Y2/1黒色粘土＋地山粘質土20% 炭混じる
② N 1.5/ 黒色 炭＋5Y2/1黒色粘土20%＋地山粘質土10%
③ N 1.5/ 黒色 炭＋地山粘質土15%

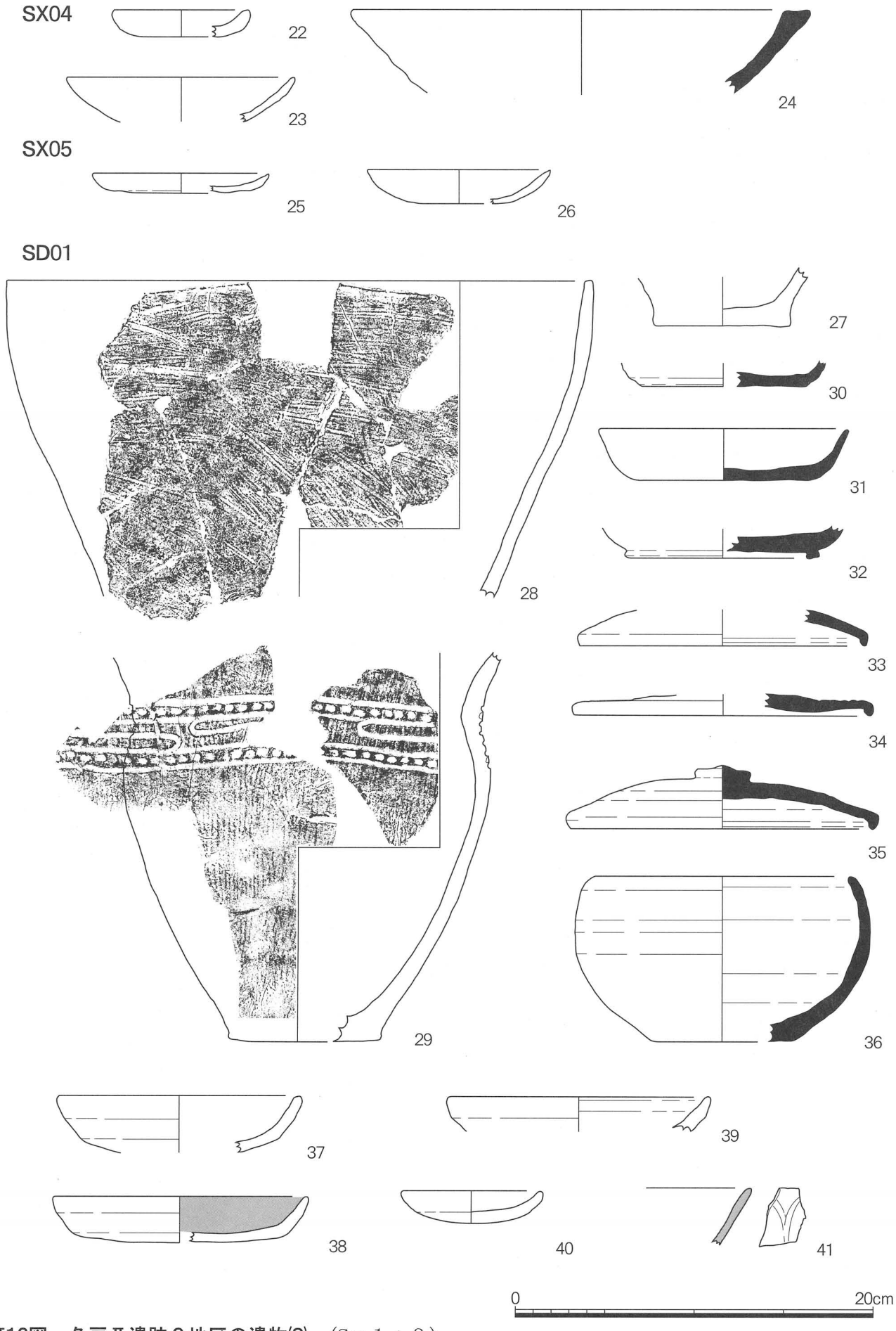
**SI03**
① 5Y2/2黒褐色粘土 炭多く混じる
② 7.5Y2/1黒色粘土 炭混じる

0 1 2m

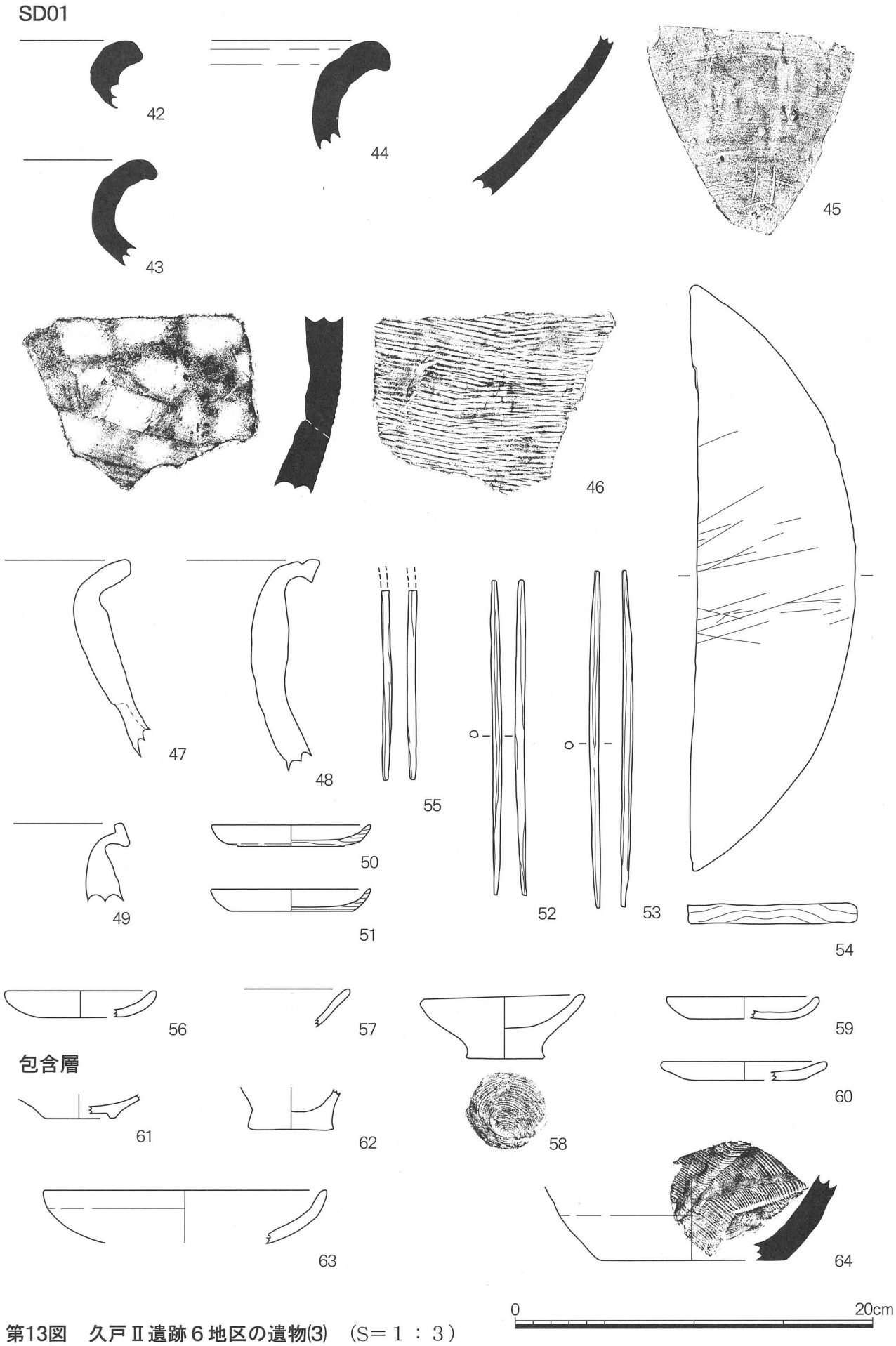
**第10図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(4)**　(S=1:40)




第11図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(1)　(S＝１：３)



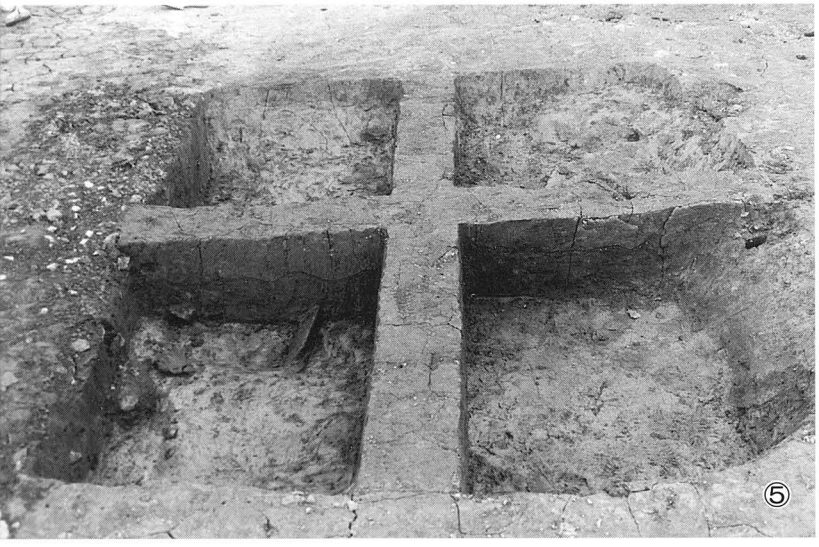

第12図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(2)　(S＝１：３)

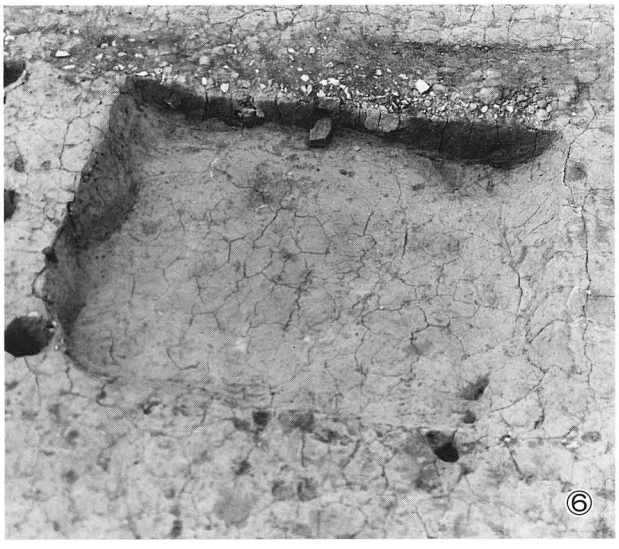



第13図　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(3)　(S＝１：３)

**図版１　久戸Ⅱ遺跡６地区遠景**

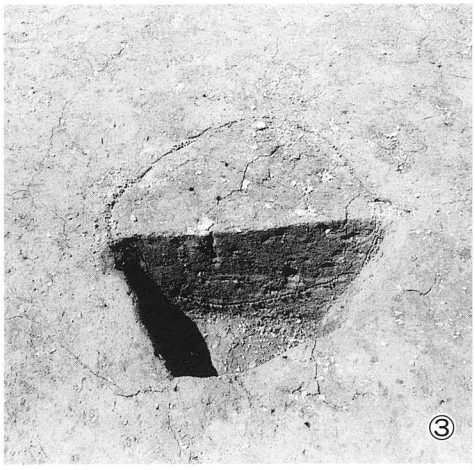
①調査区遠景(南から)　　②調査区全景(真上から)



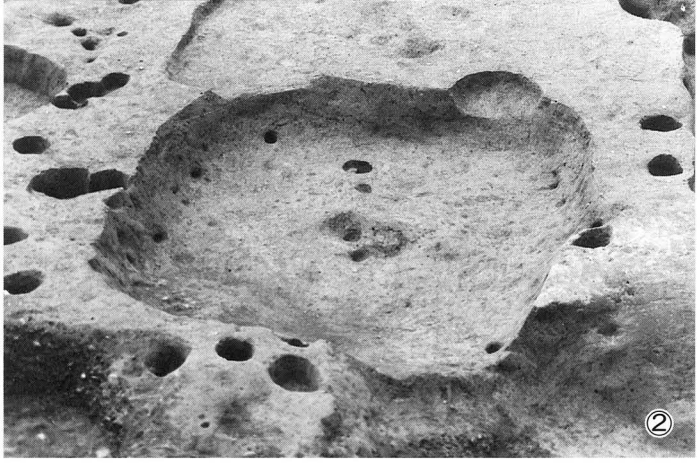
**図版２　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(1)**

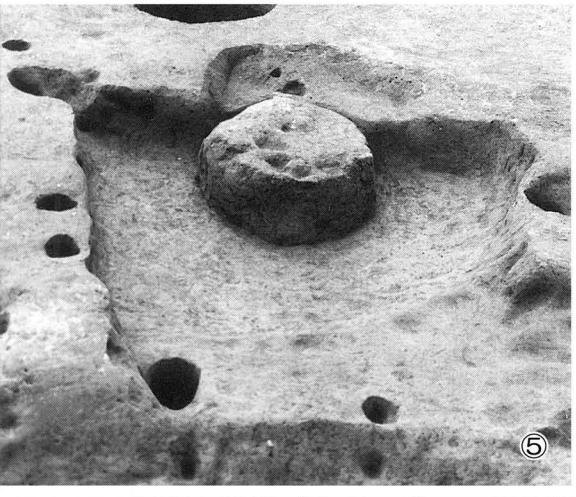
①SI01（南から）　②SI01完掘状況　③SI02(西から)　④SI02完掘状況
⑤SI03（西から）　⑥SI03完掘状況　⑦作業状況　⑧作業状況

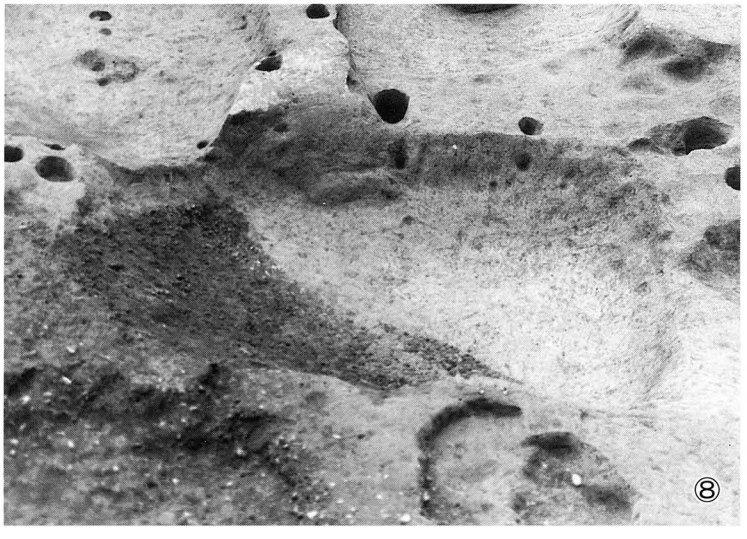


**図版３　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(2)**

①SB01（北から）　②SB01-P4　③SB01-P9　④SB02（真上から）
⑤SB02-P5　⑥SB03（南から）　⑦SB03-P4

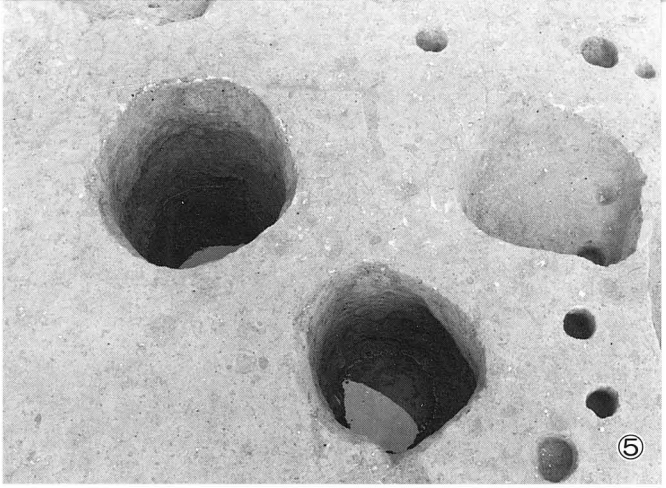


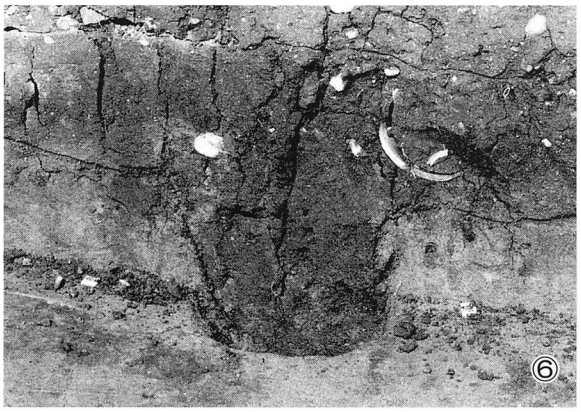





**図版４　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(3)**

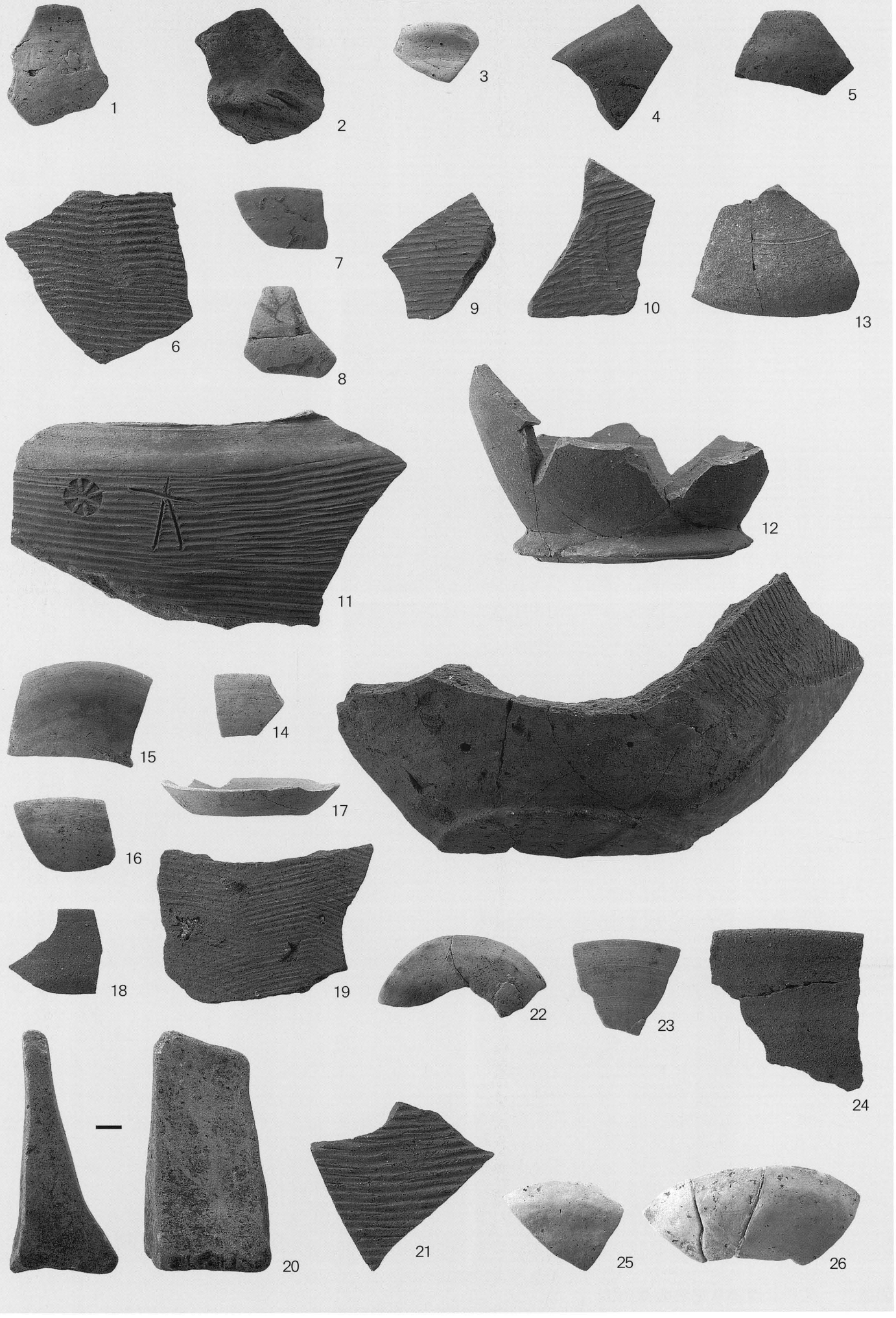
①SX01（南から）　②SX01完掘状況　③SX02検出状況　④SX02（西から）
⑤SX02完掘状況　⑥SX04 ～ 06（西から）　⑦SX01 ～ 06完掘状況　⑧SX04完掘状況



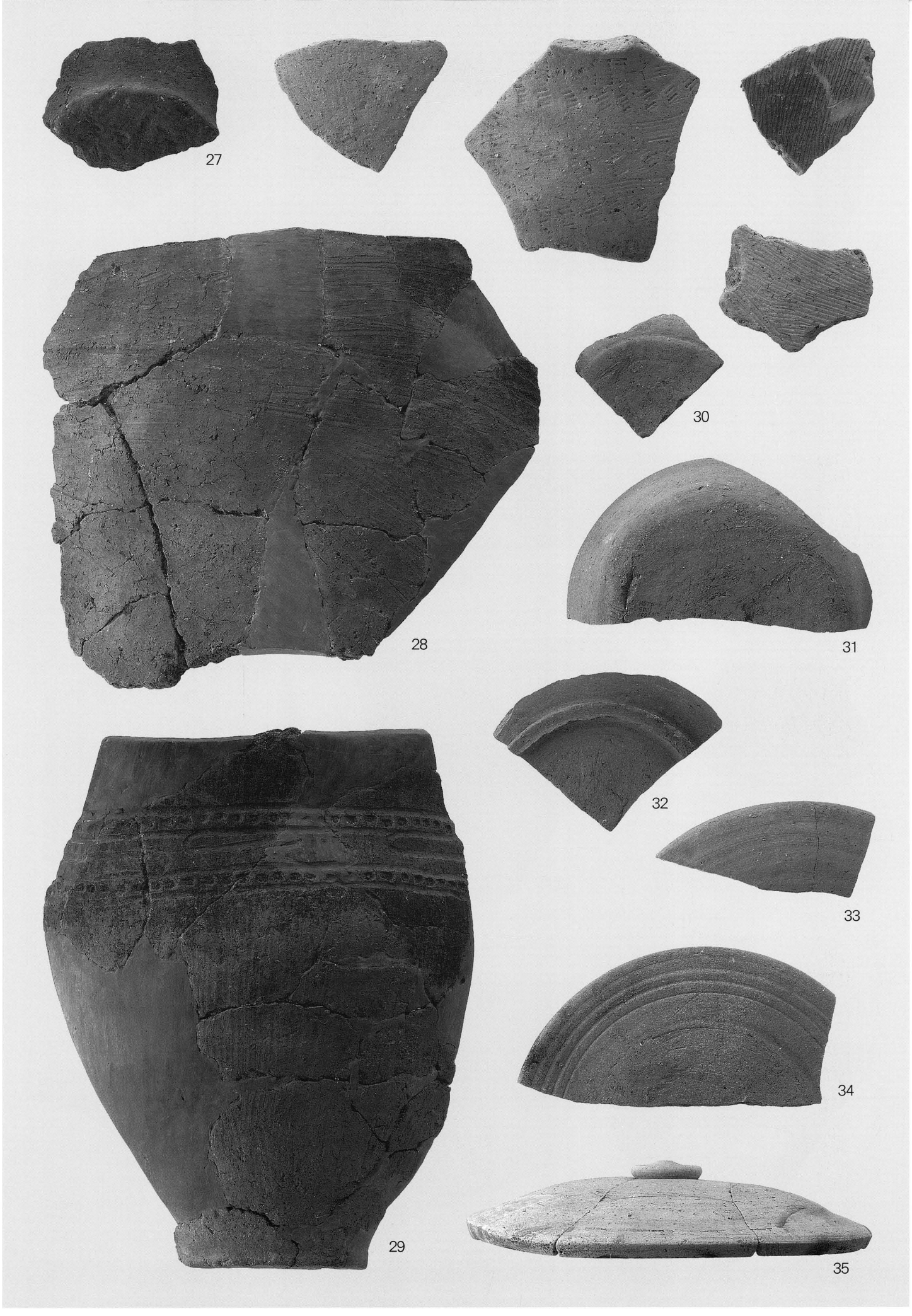


**図版５　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺構(4)**

①SK07、08（南から）　②SK12、13（西から）　③SK14（西から）　④SK15（南から）
⑤SE01、02完掘状況　⑥P134　⑦P153　⑧遺物出土状況
⑨遺物出土状況

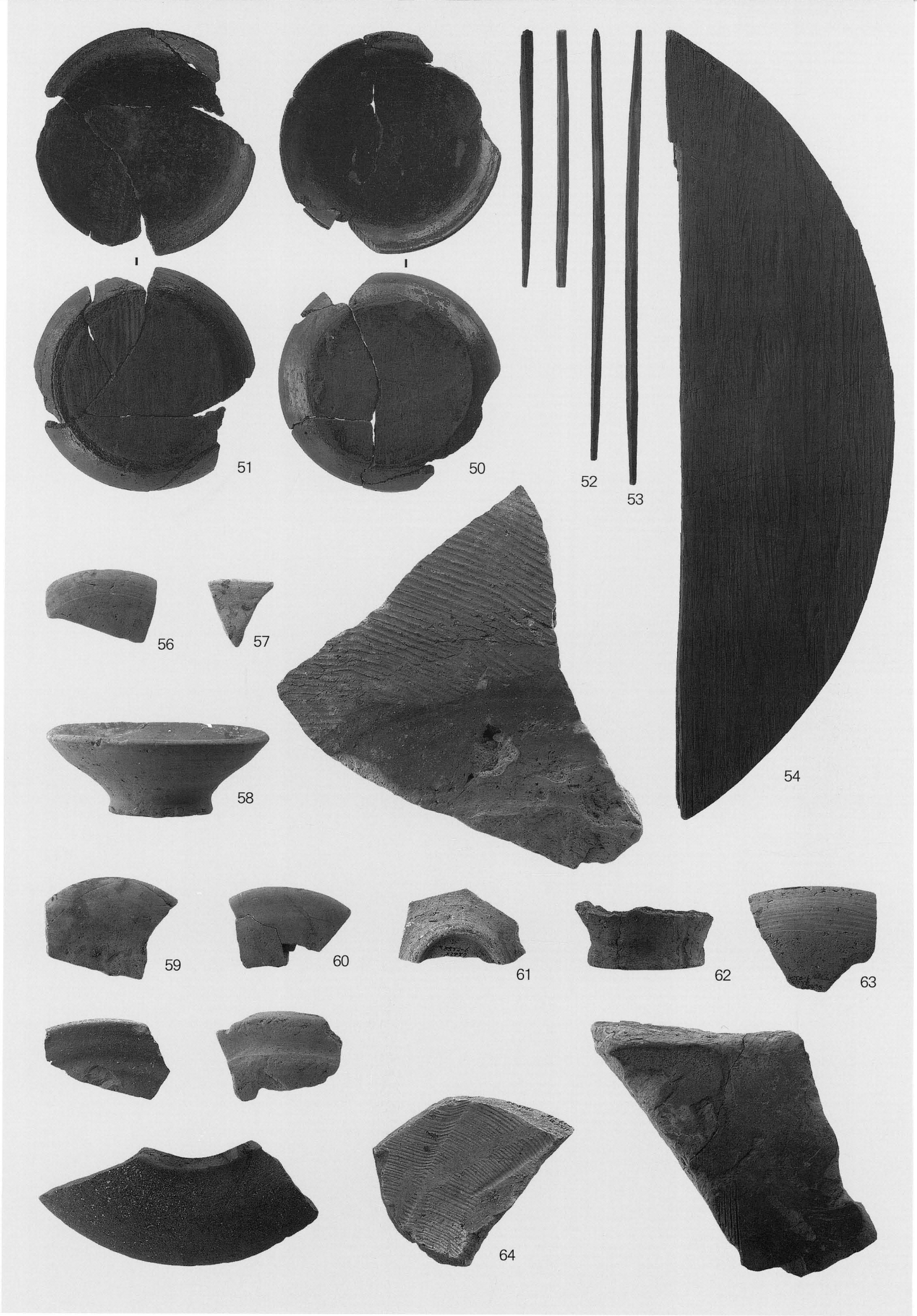



図版６　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(1)　(S=1:3)




**図版７　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(2)**　(S=1:3)

図版８　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(3)　(S=1:3)




**図版９　久戸Ⅱ遺跡６地区の遺物(4)**　(S=1:3)

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | とやまけんなんとしひさとにいせきに |
| 書名 | 富山県南砺市　久戸Ⅱ遺跡Ⅱ |
| 副書名 | 一般県道福野城端線道路改良工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告（２） |
| シリーズ名 | 南砺市埋蔵文化財調査報告書８ |
| 編著者名 | 片　田　亜　紀 |
| 編集機関 | 南砺市教育委員会 |
| 所在地 | 〒932-0292　富山県南砺市井波520　TEL（0763）23－2014 |
| 発行年月日 | 西暦2006年３月17日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| ひさとにいせき<br>久戸Ⅱ遺跡 | とやまけん<br>富山県<br>なんとしひさと<br>南砺市久戸 | 16210 | 558 | 36度33分<br>42秒 | 136度54分<br>45秒 | 050324<br>～<br>050608 | 1,685㎡ | 一般県道<br>改良工事 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 久戸Ⅱ遺跡 | 集落 | 古代 | 掘立柱建物 | 須恵器、土師器 | |
| | | 中世 | 掘立柱建物、土坑、井戸、柱穴 | 中世土師器、珠洲 | |
| | | 近世 | 河跡 | 縄文土器、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、木製品、近世陶器 | |


一般県道福野城端線道路改良工事に伴う
埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告（２）

富山県南砺市　久戸Ⅱ遺跡Ⅱ

平成18年３月

編　集　南砺市教育委員会

発　行　南砺市教育委員会

印　刷　㈲ナカダ印刷